

# 建材 マンスリー

No.728

6

JUNE  
2026

特集

## “木の外装”で 建築に新たな価値を

好木心

玉すだれ状の木組みが  
圧巻の祈りの空間「梅郷礼拝堂」

注目企業を訪ねる

亀屋良長 株式会社



# “木の外装”で建築に新たな価値を

カーボンニュートラルの実現に向けて中大規模建築物への木材利用が加速する中、主要構造部分の“木造化”だけでなく、目に見える内外装に木材を活用する“木質化”への注目も高まっている。特に外装の木質化は建築物の意匠性を高め、街並みや景観にも新たな価値をもたらす。近年、防腐・防蟻処理をはじめ木材の耐久性や耐候性を高める技術開発が進んだことで、従来は困難とされてきた“外装木質化”という木材利用の可能性が広がっている。今号では、外装木質化の価値について考えるとともに、それを支える技術を紹介する。



ヤマト本社ビル A棟・B棟（設計：日建設計・鹿島建設設計共同体）

## ●KAOによる外装木質化の事例



老舗パン店の倉庫棟（東京都）。外周は特殊な防腐・防蟻処理（ニッサンクリーンAZN乾式加圧式保存処理）を施し、シリコン系木材保護塗料（S-100）で染色した24mm厚のヒノキ合板で覆っている



国産スギ材の外壁とウッドデッキが室内外のつながりを生み出す（個人宅）

性塗料を塗布した厚さ24mmのヒノキ合板を採用し、合板だからこそ可能な表現を実現しました。将来的な店舗全体の更新を視野に入れた約10年を前提とした建築ではありませんが、これほどの規模で合板を外装の主役にしてきた例は他にないと思います。

### 街に溶け込み 愛着の湧く建築へ

——外装木質化を取り入れやすい箇所はありますか？

部分的に活用するのであれば雨の当たりにくい軒下の外壁から取り入れてみるのもいいでしょう。軒天は外から見上げたときに目に入りやすく、外観全体の印象を左右します。

木質化の効果が大きい一方で、法的条件にも配慮しながら慎重に検討したい箇所です。

——外装木質化のメリットはどのような点でしょうか？

一つには、「外装表現の幅を広げる」ことが挙げられます。都心部では防火規制もあるため、外装材の選択肢は限られていると思われがちですが、しかし実際には、必要な防火性能を確保した上で木材を活用できるケースも少なくありません。木材という選択肢を見直すことで、建築物に新たな表情を与えることができるのです。また、「街に溶け込みやすい建築になる」という点もメリットです。昔ながらの瓦や木材などを用いた建

## 進む外装木質化 “合板”を活用した物件も

——外装木質化の現状について教えてください。

梅雨や高温多湿、乾燥など過酷な気候の変化への対策や、建築基準法による防火上の規制など、日本の建築物における外装木質化には高いハードルがありました。しかし近年ではこれらの課題が克服されつつあり、10年前と比較しても外装木質化が実現しやすい環境が整ってきました。

例えば、耐久性や耐候性に関する技術の進歩により、外装木質化へのハードルは大きく下がりました。また、法制度の整備や技術の進歩により、防火地域でも規模・構造の条件次第では外装木質化が可能になっています。さらに、ユーザーの意識も変化しています。以前は経年による色の変化を避ける傾向が強まりましたが、近年ではこれを“味わい”として受け入れ、価値として楽しむ文化が育まれました。こうして環境の変化により、外装に木材を活用した建築物は少しずつ増えており、外装木質化に二の足を踏んでいた設計者や建築主の意識にも変化が表れていると感じています。

建築物は、古くなくても味わいが増し、街の風景にもなじみやすいものです。さらに木質化は、親しみやすさを生み出し、街の木々とも呼応して一体感をつくり出します。住宅の外壁に木材を使ったり、ウッドデッキを設置したりすれば、リビングが外に開かれ、街との調和も生まれるでしょう。

そして、木材は「人と建築を近づける」ことにも一役買います。どのような素材を使っても、建築物の価値を維持するためにはメンテナンスが欠かせません。一方、住宅では製品化が進んだことでユーザー自ら修繕することが難しい現状もあります。しかし、ユーザー自身が手を入れやすくすることは、住宅への愛着につながります。木材は加工しやすい素材なので、メンテナンスを通してユーザーと建築との関わりを育むことができるのです。

——今後、外装木質化に期待することは何でしょうか？

住宅は個人のものである一方、街の景観をつくる地域の財産でもあります。そのため建築においては、外観デザインの重要性がより広く認知されると良いと思います。かつて欧



KAO カスアヤーキテクトオフィス 代表  
関東学院大学 建築・環境学部 教授

粕谷 淳司氏

——どのような建築物に外装木質化が取り入れられているのでしょうか？

古い団地や商業施設などのリノベーションに採用されるケースが増えて印象です。人が集まる空間をつくりたい場合、木材は非常に効果的だと思います。木には人を自然と引き寄せる力があり、独特の風合いは思わず手で触れたくなる感覚をもたらします。こうした身体的な親しみやすさは、人と建築との距離を縮めてくれる、他の素材には代えがたい魅力だと思います。

——ご自身の取り組みでも従来になかった挑戦がありますか？

食パンとロールパンだけを作り続けてきた老舗パン店の倉庫棟を手掛けた際に、パン生地を持つ自然な風合いを建築の外観にも与えられないかと考え、外装に合板を使用しました。

従来、合板を外装に使うことは耐久性の観点から困難でしたが、この案件では防腐・防蟻処理に加え耐候州では、建築物の外観をデザインすることこそが建築家の重要な役割と考えられていました。外装は不動産価値の向上にも不可欠な要素であり、素材選定には経年変化も見据えることが重要です。

木のような親しみの湧く素材を用いると、人を迎え入れる場所としての魅力が生まれます。本物の素材が持つ心地よさは建築への信頼感にもつながり、人と建築との距離を縮めてくれます。

また、技術の進展によって建築の可能性が広がっていることも知っていただけると良いですね。外装に木材が使われている伝統的な木造建築もありますが、耐久性の観点からは現代の建築にそのまま採用することは困難でした。しかし、防腐・防蟻処理や耐候性塗料の開発により、合板が外装に使用できるようになり、強度面で課題のあった国産スギ材を国内で循環させることも可能になります。今後も外装木質化への流れは続くと考えています。木材は単なる仕上げ材ではなく、人と建築、そして街との関係を豊かにする素材です。そうした視点からも、木材のさらなる活用に期待しています。

# 外装木質化を加速させる画期的な技術

建物の外装に木材を使うには、耐久性や耐候性の面で高いハードルがあった。これらの課題を解決し、外装木質化の実現に貢献する技術を紹介する。

## 「AZN処理×S-100」

### 新たな外装材の選択肢となる

## 「SUSTIMBER®」

「SUSTIMBER」は、「AZN処理」と「S-100」を組み合わせることで、それぞれの性能を併せ持った高耐久性、高耐候性を実現した木材です。反り・ささくれなど、もともとの木材品質が性能劣化の起点となるため、木材自体の品質基準を定めるとともに、「S-100」の工場塗装で塗布量管理や塗りムラ・塗り漏れを防ぎ、性能を担保しています。マンションなどの軒天や外壁、アーナの鉄骨被覆材としても採用いただいております。

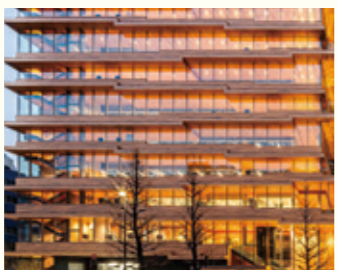
現在、業界では、建築物の価値向上につながる外観デザインの差別化になるとして、外装木質化への関心が高まっています。「SUSTIMBER」は、木材ならではの質的な匠性の実現はもちろ

ろんのこと、大規模建築物でも柔らかく圧迫感を減らす効果が期待できます。また、街の木々とも調和する景観づくりにも貢献します。さらに、腐朽による落下リスクを抑制できるので高所への活用も可能です。塗装面の潤滑性により木材の光沢感を維持し、夜間のライトで映えるなど表面特性からも外観デザインの幅を広げる製品です。

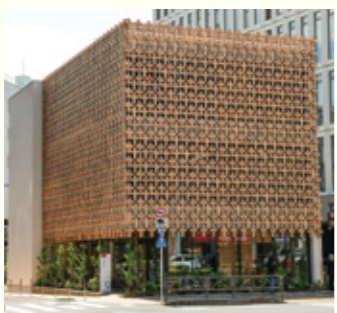
一方で、“外装木質化工事”という業種はなく、RCやS造に木材を施工するノウハウが世の中に蓄積されていない状況です。そのような中、「SUSTIMBER」は材工込みのご提案も可能で、案件ごとに施工方法を検証しながら安全な取り付けを実施しています。

今後は、アルミと木材のミックス建材開発といった建材メーカーとの協働にも積極的に取り組み、「SUSTIMBER」を浸透させていきたいと考えています。

### 「SUSTIMBER」の採用事例



ヤマト本社ビル A棟・B棟  
(設計：日建設計・鹿島建設設計共同体)



上智大学四谷キャンパス15号館



住友林業の6階建て住宅

外装木質化のニーズを背景に商品化した「S-100」は、半透明で木目を生かしながら、紫外線劣化と腐朽を抑制する水性シリコンゴム系の木材保護塗料です。

線により破壊されることで、“灰色化”を招きます。「S-100」では、日焼け止めに含まれるホウ酸亜鉛が紫外線劣化を抑制。また、腐朽菌は含水率25%以下で活性化が抑制されます。「S-100」の塗膜は撥水性

の高いシリコンが網状となり、木材内部への過剰な水の浸透を防ぎます。さらに、伸び縮みする木の動きに柔らかな塗膜がフィットすることで、破れにくく、効果の持続性を高めます。低臭性や速乾性も兼ね備えており、工場塗装が可能なため現場塗装の手間を省くこともできます。重ね塗りによってメンテナンスサイクルを長くすることも可能です。

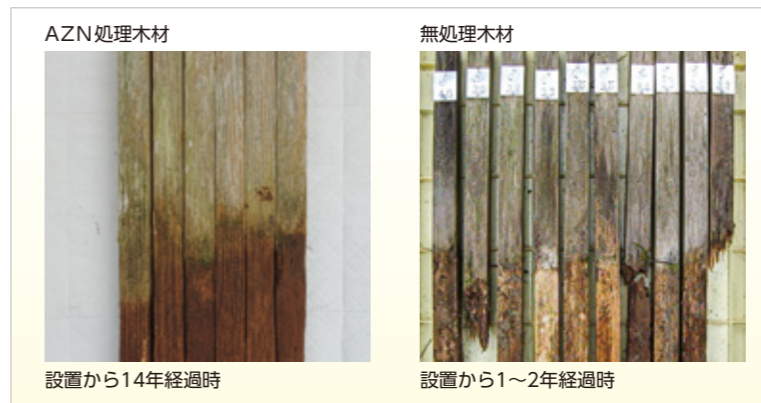
「国立競技場」をはじめ、商業施設や学校、オフィスビルなど様々な建築物に採用いただいています。今後も木材の性能を高め、活用の選択肢を広げる取り組みを進めていきたいです。

## 風合いを損なわず紫外線から守る 木材保護塗料「S-100」

### 住友林業株式会社

事例 2

### ●野外杭試験におけるAZN処理木材と無処理木材の比較



AZN処理木材 設置から14年経過時  
無処理木材 設置から1~2年経過時

加圧式保存処理で最も一般的なのが、薬剤を水に溶かして用いる湿式処理法です。一方でAZN処理は、水を一切使用しない乾式処理法のため、木材の含水率が変わらず、曲がりや反り、寸法変化がほとんどないという特徴があります。薬剤は水に溶けないので、雨にさらされても溶脱しにくいというメリットもあります。

住宅の高断熱化が進む中、内部結露による腐朽リスクが高まっており、近年ではアメリカカンザイシロアリのように飛来する外来種も存在する

ことから、従来の防蟻処理では十分な状況となっていきます。土台以外の構造部分にも処理を施し、未処理部分が外部に露出しないようにすることが重要です。

## 腐朽と蟻害から木材を長期間守る 「ニッサンクリーンAZN 乾式加圧式保存処理」

### 兼松サステック株式会社

「ニッサンクリーンAZN乾式加圧式保存処理」(以下、AZN処理)は、当社の独自技術により、防蟻・防蟻薬剤を乾式・加圧注入で木材内部ま

で浸透させることで、シロアリや腐朽菌から守り、木材の“長寿命化”を実現します。木材を劣化させる大きな要因は「蟻害」と「腐朽菌による腐朽」です。木材は長期的な使用が可能な素材ですが、これらに対して未処理のままでは、時間の経過とともに腐朽、蟻害のリスクが高まります。

さらに、金属腐食性が低いので釘保持力も維持でき、無色無臭で木の風合いも損ないません。地中杭という過酷な環境下での耐久性試験では、無処理材の約7倍という結果も出ています。

木材強度が低下すれば耐震性能の維持ができなくなります。“木を賢く使うこと”は“長期間使うこと”

### 防蟻・防蟻処理で 木材本来の物性・強度を維持

AZN処理木材は腐朽による落下リスクを抑制するため、軒天や建物上部への木材利用も可能にし、中大規模建築への木材利用促進にも貢献しています。

一方で、木材への保存処理に対しては変色や臭いといったネガティブなイメージもあります。AZN処理がこれらの課題を解決した技術であることを積極的に発信し、木材を安全に長期間使うための重要な取り組みであることを啓発していきたいです。



住友林業  
ホームエンジニアリング  
株式会社  
木化構造推進部 課長

上田 拓也



住友林業株式会社  
木材建材事業本部  
住宅・建設資材営業部  
建設ソリューショングループ  
シニアリーダー

門田 賢一



営業推進部 営業推進課  
シニアアドバイザー

宮崎 豊氏



営業推進部  
部長

渡邊 敏氏



S-100・SUSTIMBER  
の紹介動画はこちらから！

# マンションの常識を覆す！ “外装木質化”という新たな挑戦

明和地所株式会社

明和地所の新築分譲マンションブランド「CLIO（クリオ）」は、1000棟記念の物件「クリオ桜新町ザ・クラシック」で外壁に「SUSTIMBER」を採用した。外壁はタイルや吹付タイルが主流のマンション業界で、既成概念を打ち破る革新的な取り組みだ。なぜ、本物の木材を外壁として採用したのか。開発コンセプト、物件に込めた想いを開発者に聞いた。

住まいづくりにおいて、「環境配慮」

「地域貢献」「コミュニティの形成支援」「伝統文化の継承」という4つの理念を掲げている当社は、単にマンションを商品として販売するのではなく、周辺地域の歴史や魅力も守りながら社会課題の解決を目指しています。

「桜新町」という名称は大通りに面する桜並木に由来しており、地域の桜に対する愛着が感じられたことから、クリオ桜新町ザ・クラシックは『桜新町の魅力を最大化する』をコンセプトとしました。敷地内に桜の木を植樹し、将来にわたり、まち全体に桜を植えたいと思える環境を創り出すことを目的としています。外観デザインはガラスと木をメインに構成し、コンセプトをより具体化するべく、外壁の2階・3階に「SUSTIMBER

ER」を採用しました。また、伝統文化の継承という観点から、法隆寺などの神社仏閣で修繕・保存にも用いられてきた「継ぎ足し」の思想を受け継ぎ、本物件では木材外壁の形状を「あいじゃくり」加工\*にすることで、破損時は部分取り替えができるようにしています。

メンテナンス面では、木材保護塗料「S-100」による約10年ごとの再塗装を想定しています。住友林業との綿密な協議を経て、品質への確信を得たことが「SUSTIMBER」採用の決め手となりました。

木質化でマンション文化を刷新し  
日本の街並みを変えていく

販売開始から問い合わせは5000件を超え、極めて好調な販売推移で、

完売間近の状況です。木を生かしたデザインの面白さ、そしてこれまでになかった唯一無二のものという差別化要素も、強い購買動機につながったと分析しています。

マンションは戦後からほぼ変わらないうタイル貼りの文化が続いており、マンションにも木材を取り入れる「木文化への回帰」は当社が長年実現を目指して取り組んできたテーマでした。今回、「SUSTIMBER」採用によって本物の木材を使用し、外壁を木質化した業界初の分譲マンションが実現します。このようにマンション文化を刷新し、日本の街並みを更新していくことが私たちの使命であると捉えています。

本物件はあくまで「始まり」であり、マンション業界全体の木質化をけん引する出発点にしたいと考えています。また、将来的には外装だけでなく、構造や内装などプランニング全体への木材活用も視野に入れています。多世代が自然に集える居場所をつくり、そこで人と人、人と自然をつなぐ「コミュニティプラットフォームとしての住まい」を、木を起点として実現していきたいと考えています。

## ●「クリオ桜新町ザ・クラシック」(東京都世田谷区)



開発事業本部  
建設一部 調査役  
たかひろ

石丸 崇敬 氏



開発事業本部  
開発事業本部長  
あきら

米丸 陽 氏

\*「あいじゃくり」加工：板材の接合部に凹凸の溝を彫り、互いにかみ合わせて組む伝統的な木工技法。板同士のつなぎ目に隙間が生じにくく、気密性・防水性に優れる。また、木板は1枚ずつ取り外し可能なため、長期的なメンテナンスを前提とした設計に適している

【こうき・しん】

# 好木心

vol.65

## 玉すだれ状の木組みが 圧巻の祈りの空間 「梅郷礼拝堂」



写真提供：加藤建築設計事務所

### 千

千葉県野田市の郊外、豊かな緑に囲まれた霊園（ヒューマンメモリー梅郷）の一角に、小さな礼拝堂が建っている。ここ「梅郷礼拝堂」は、1395年に創建された大師山報恩寺の別院で、宗派をこえて使われてきた木造の礼拝施設である。「100年先も祈りの場であり続けられるように」というコンセプトのもと、建築家の加藤詞史氏（しごみ）によって設計された。歴史と環境を丁寧に写し取りながら経年変化と耐久性に配慮した建築物となっている。

建物は上から見ると、周囲にある竹林と日本庭園、池に向かつて3方向に広がる形状で、最大の特徴は、「南京玉すだれ」のように木材をずらして組み合わせた独特の木造架構だ。天井部に向かつて幾重にも連なる構造体はすべてが現しとなっており、内部空間に柔らかな陰影とリズムを生み出している。

この木造架構は、一般的に流通している105mm角のヒノキ製材を組み合わせ、柱・梁が一体となった6種18本の組柱を3方向から架け渡し、互いに支え合う「相持ち」構造となっている。木材同士は、「合欠き仕口」\*で接合。繊維方向に適切に力を伝達するよう組むことにより、経年によって木材が乾燥・収縮しても十分な耐力を保つよう設計されている。また、最初に中心となる3本の組柱を組み、これにもたせ掛けるように構成することで、仮受け材や足場を最小限にする合理的な建て方となっている。

小さい材が集合体となって大屋根を支えるその姿は、「個人」が集まり、力を合わせるイメージを連想させ、宗派をこえて人が集い、祈り、時を重ねる梅郷礼拝堂のあり方とも重なる。

場所が持つ意味や思想を唯一無二の建築美によって体現した梅郷礼拝堂は、「木材活用コンクール」での受賞のほか、「東京建築賞 一般一類部門 最優秀賞」「グッドデザイン賞」「AAC A賞2018 芦原義信賞（新人賞）」など数々の賞に選ばれた。地域の文化や記憶を再生し、訪れる人をおおらかに包み込むこの建築は、開かれた祈りの場として100年後の人々にも静かに届くことだろう。

\*合欠き仕口：2つの部材を同じ形で半分ずつ欠き取り、接合面を合わせてつなぐ木材接合の方法  
見学連絡先：ヒューマンメモリー梅郷

# 注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

「街から人が消え、売り上げも6割減少しました。そこで、ECサイトでの注文を増やすため、SNSを活用した京菓子の魅力発信に着手。京菓子の製造動画などを積極的に投稿しました。もともとクロードだった業界の職人技は注目を集め、ひと晩で1万人

「新しい菓子はメディアでも話題を呼び、初めて亀屋良長を知った顧客が伝統的な京菓子を購入するなど相乗効果も生まれた結果、売り上げはV字回復。約5年後には、女将である吉村由依子氏と開発した「スライスようかん」も大ヒットする。しかし、このタイミングで「コロナ禍となってしまう」。

「古くから和菓子には外来のものを日本流にアレンジしてきた歴史があります。奈良・平安時代は油で揚げた唐果物、鎌倉・室町時代は羊羹やまんじゅう、安土桃山時代には卵を使った南蛮菓子の影響を受け、明治時代は乳製品を使った西洋菓子の技術も取り入れてきました。今、それができないはずはないと挑戦を決意し、私たちの伝統と技巧を生かしつつ従来の枠にとらわれない菓子が誕生しました」

目指し、亀屋良長へ入社した。以前から八代目には京菓子和洋菓子を掛け合わせた菓子づくりへの思いがあったが、専門技術もなく、「ごだわり」や職人たちからの反対もあり行動に移せていなかった。

## 伝統を生かしながら 従来の枠に捉われない商品開発で 新しい京菓子の世界を拓く老舗



代表取締役

吉村 良和氏

本社 ● 京都府京都市下京区  
四条通油小路西入柏屋町  
17番、19番合地  
創業 ● 1803年  
資本金 ● 1,000万円  
従業員 ● 56名  
事業内容 ● 和菓子・京菓子の製造・販売

「ごだわり」からの脱却が  
新たな挑戦への後押しになる

「和菓子の中でも、京都の文化を反映し四季折々の繊細な美しさを表現する『京菓子』。創業1803年の亀屋良長は長い歴史を紡ぐ京菓子の老舗だ。伝統を守り続ける一方で、洋菓子とのコラボブランドの立ち上げや、パンに乗せて焼くシート状の「スライスようかん」など大胆な商品開発にも挑戦している。

「私は伝統産業である京菓子店の八代目として生まれ、業界の傾向と同様に、伝統を守るこそが大切だと考えてきました。しかしバブル崩壊後、時代の変化とともに売り上げが減少し、倒産の危機に陥ってしまいました。さらにそのような中で私自身に大病が見つかりました。幸い少しずつ回復

# 亀屋良長株式会社

### ここが注目ポイント

伝統を継承しながら、  
革新的な商品開発に挑戦

SNSで製造動画を投稿し、  
クローズドな職人技を公開

若手が菓子を企画制作する  
「かめや和菓子部」を創設



京菓子の魅力に触れてもらうため、京菓子づくりの体験教室も開催



パティシエ藤田怜美氏の感性と、亀屋良長の伝統と技巧が織りなす菓子ブランド「Satomi Fujita by KAMEYA YOSHINAGA」



亀屋良長の商品例。創業時より受け継がれる代表銘菓「烏羽玉」(右上)、パンに乗せて焼くと小倉パターントーストになる「スライスようかん」(右下)、SOU・SOUのテキスタイルをモチーフにした琥珀糖(左上)



できましたが、その過程で取り組んだヨガで、指導者の相川圭子先生の「ごだわりを捨てる」という言葉に出会ったことが転機となりました」

「ごだわりってその伝統産業と考えると、たまため、初めはその言葉が腑に落ちなかった。そんなとき、百貨店のバイヤーから新しい素材とモチーフで京菓子をつくってほしいという難しい依頼が舞い込む。それは京菓子ではない」と断ろうとしたが、この思い込みが「ごだわりではないか」と気づく。

「思い切って取り組んでみると、バイヤーさんも購入してくれたお客様もとても喜んでくれて、新たな気づきをえました。それからは様々な依頼を受けるようになり、『亀屋良長に頼めば何とかしてくれる』と評価され、注文も増え始めました。同じ頃、菓子を提供した寺社の茶会で新進気鋭のテキスタイルブランド「SOU・SOU」と出会い、統一感のなかったパッケージデザインを刷新。同社デザインのテキスタイルをモチーフとした菓子の創案などにも発展し、新しい取り組みへと広がっていきました」

「伝統を生かして  
今に求められる菓子づくりを

「良い連鎖は続く。パリでシエフパティシエを務めていた人物が和菓子職人の道を

近くにフォロワーが増えるほどです。京都の銘品との詰め合わせセットなど新たな企画も功を奏し、全国からネット注文が集まりました。また、SNSの活用は京菓子業界全体の認知度向上にも一役買っています」

「挑戦は人材確保にも広がる。和菓子業界は自分の菓子が店舗に並ぶまで5〜10年の修業を必要とする職人の世界だ。しかし、ここでは顧客にのびのびと喜んでもらえる喜びを知らないまま、若手が辞めてしまう。そこで、若手自らが菓子を企画・制作する「かめや和菓子部」を創設し、一週間限定ながら店舗で販売する機会を設けている。この取り組みは採用や離職率低下につながった一方、自信と技術を身につけて独立する職人もいるという。しかし、業界にとっては良いことだと八代目は話す。

「伝統産業として革新的な挑戦ができるのは、伝統の捉え方にあると感じています。伝統とは代々続いてきた知恵の結晶ですが、社会が必要とされなければ商売としては成り立たない。伝統は守ることが目的ではなく、伝統を生かして今の顧客にいかにか喜んでもらうかを指すことが大切なのです。京菓子という言葉で顧客に幸せを伝えるという軸を守りながら、例えば血糖値が上がりにくい材料を使った菓子づくりや様々な企業とのコラボなどを通して、京菓子を知ってもらい挑戦を今後も続けていきたいですね」

## 「みらいエコ住宅2026事業」における 新築住宅の「GX志向型住宅」に係る要件を変更 — 国土交通省

国土交通省は、「みらいエコ住宅2026事業」における「GX志向型住宅」の要件変更を発表した。現在、GX志向型住宅の交付申請要件である高度エネルギーマネジメント (HEMS) の導入は、IP通信を用いる製品を使用する場合、独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) による「セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度」(JC-STAR)\*において、★1以上の適合ラベルを取得した製品の使用を推奨としている。また、JC-STARの取得状況や市場の調達状況などを踏まえ、一定期間において必須要件とする可能性があるとしていた。

この要件を変更し、建築確認申請書の提出日が2026年7月1日以降の住宅においては、JC-STAR★1以上の適合ラベルを取得した「HEMSコントローラ」であることが「必須要件」となる。太陽光発電システムを導入する住宅では、IP通信を行う構成機器 (パワーコンディショナ、リモコンなど) が含まれる場合でも、当該機器が

JC-STAR★1以上の適合ラベルを取得していることを必須要件とする。

\*セキュリティ要件適合評価及びラベリング制度 (JC-STAR) : ETSI EN 303 645やNISTIR 8425などの国内外の規格とも調和しつつ、独自に定める適合基準 (セキュリティ技術要件) に基づき、IoT製品に対する適合基準への適合性を確認・可視化する我が国の制度

### ■ 要件変更点

JC-STAR★1以上の 適合ラベル取得	確認申請書提出日	
	～2026/06/30	2026/07/01～
高度エネルギー マネジメント (HEMS)	推奨	必須
太陽光発電システム	推奨	必須

\*GX志向型住宅の戸建住宅における交付申請の上限戸数 (別枠) の要件に含まれる蓄電池についても同様に、建築確認申請書の提出日が2026年7月1日以降の住宅においては、JC-STAR★1以上の適合ラベルを取得した製品の使用を必須要件とする。当該要件変更に伴う申請手続きの変更点は後日公表する

## 建築物のライフサイクルカーボン算定ツール「J-CAT-戸建」の正式版を公開 — 一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター (IBECs)

IBECsは、戸建住宅のライフサイクルカーボン算定ツール「J-CAT-戸建」の正式版を公開した。

「J-CAT」は、建築物のライフサイクルカーボンの削減に向けた制度の検討が進む中、2024年10月に一般建築物等を算定対象としたライフサイクルカーボン算定ツールとして公開されていた。2025年11月には、十分に対応できていなかった戸建住宅についての算定ツール「J-CAT-戸建」の試行版を公開。より使いやすくするため意見募集を実施し、その結果を踏まえ、正式版の公開となった。

なお、「J-CAT-戸建」の公開に伴い、従来の一般建築物等を対象にした算定ツールの呼称が「J-CAT-建築」に変更されている。

### ■ J-CATの特徴

資材数量削減、低炭素資材採用、EPD (環境製品宣言) の活用、木材利用、施工努力、長寿命化など、多様な温

室効果ガス排出量削減手法に対応可能。

- ① 活用目的に合わせた算定法を提供  
(「J-CAT-戸建」では設計から竣工までの最も標準的な利用を想定した「標準算定法」を提供)
- ② 金額ではなく数量ベースでも算定が可能
- ③ デフォルト値の充実
- ④ 算定結果情報の充実

### ■ J-CATの使用登録とダウンロード

J-CATの使用には、「J-CAT-建築」及び「J-CAT-戸建」それぞれに使用登録が必要となる。

### ■ J-CATによる算定結果報告依頼

J-CATの改良や我が国における建築物のライフサイクルカーボンの実態把握のため、利用者に対して算定結果 (匿名データ) の報告を依頼している。

### ■ 問い合わせ先

E-mail : jcat@ibecs.or.jp

### 編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業 建材マンスリー



■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス : [kenzai-monthly@sfc.co.jp](mailto:kenzai-monthly@sfc.co.jp)

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

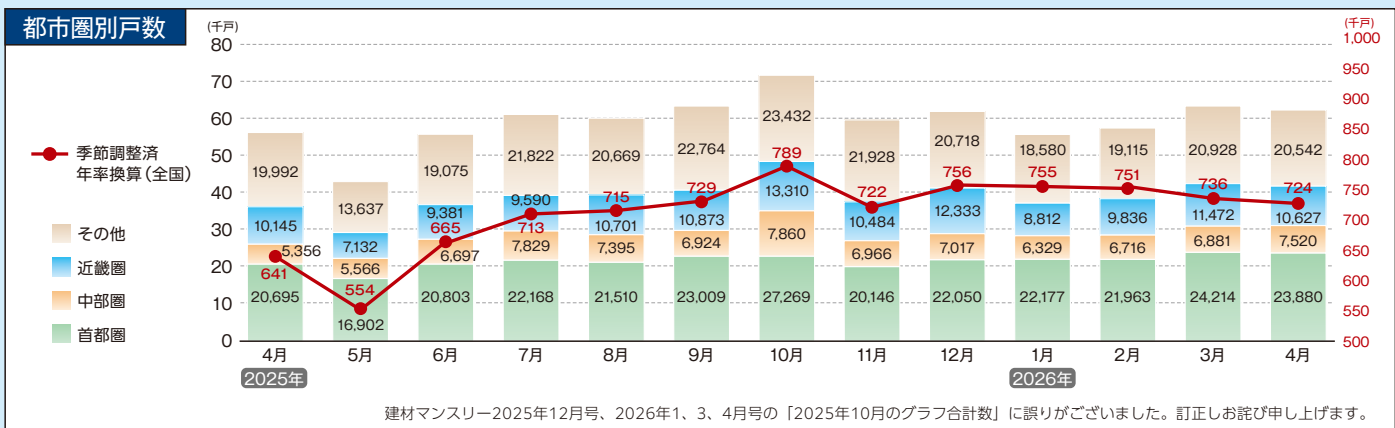
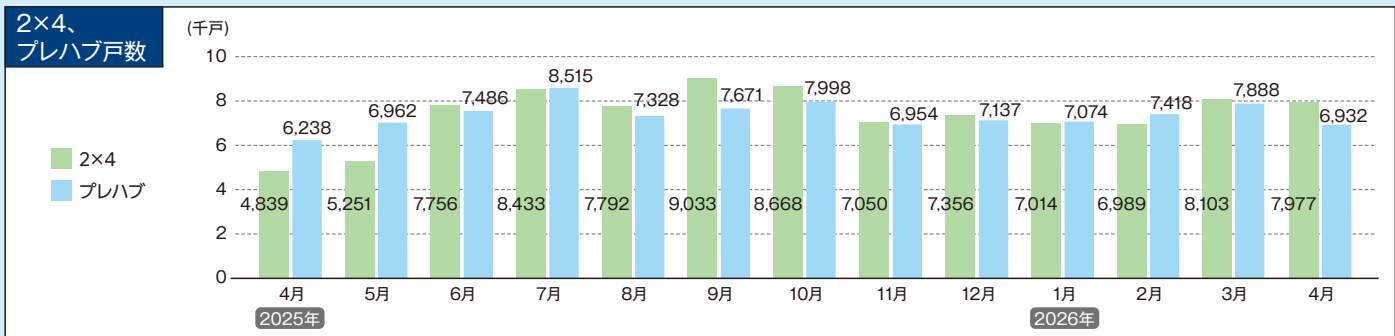
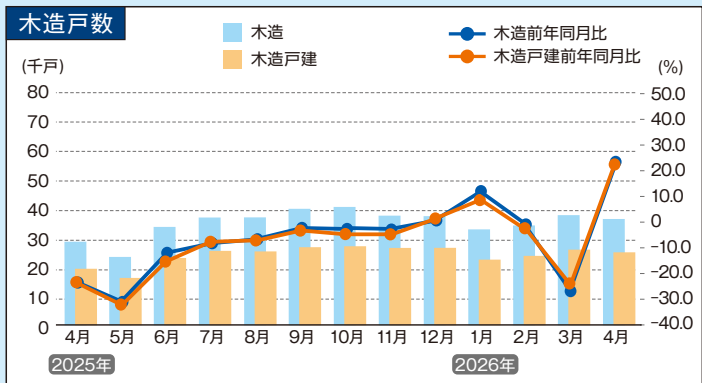
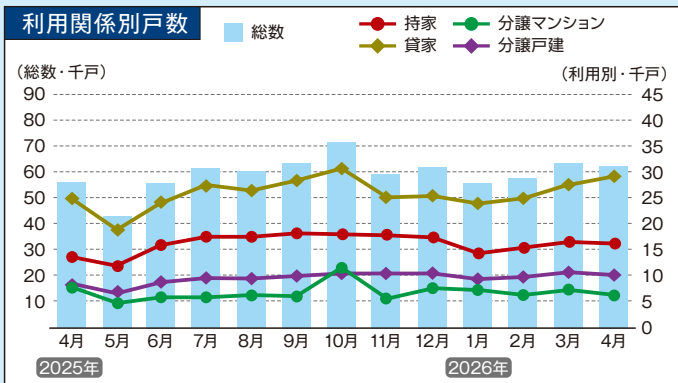
先日、白っぽく変色している木製の外構を見かけました。「ああ、これが灰色化か」と思うと同時に、2024年6月号で木材保護塗料について取材した際のある言葉を思い出しました。「屋外で使用する木材は紫外線劣化するのが自然なこと。人間と同じように、劣化を抑制したいなら“日焼け止め”を塗るしかない」というもの。ふと鏡を見ると、シミが始めてきた肌…これ以上の劣化は避けたいと、今までいい加減だった外出時の“紫外線対策”を心に誓いました。(E)

表紙 : 住友林業 (株) 住宅事業本部 千葉支店 幕張第二展示場

\* 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

## 2026年4月の新設住宅着工戸数 単位：戸 ▲は減

		4月					3月	2月	1月
		対前年同月比		対前々年同月比					
<b>新設住宅計</b>		<b>62,569</b>	<b>6,381</b>	<b>11.4%</b>	<b>▲ 14,013</b>	<b>▲ 18.3%</b>	<b>63,495</b>	<b>57,630</b>	<b>55,898</b>
建築主別	公共	1,342	348	35.0%	358	36.4%	1,584	541	470
	民間	61,227	6,033	10.9%	▲ 14,371	▲ 19.0%	61,911	57,089	55,428
利用関係別	持家	16,296	2,661	19.5%	▲ 1,581	▲ 8.8%	16,659	15,501	14,418
	貸家	29,265	4,326	17.3%	▲ 5,333	▲ 15.4%	27,678	25,042	24,032
	給与住宅	306	▲ 1,160	▲ 79.1%	▲ 846	▲ 73.4%	628	474	413
	分譲住宅	16,702	554	3.4%	▲ 6,253	▲ 27.2%	18,530	16,613	17,035
	うちマンション うち戸建	6,293 10,156	▲ 1,416 1,987	▲ 18.4% 24.3%	▲ 5,933 ▲ 423	▲ 48.5% ▲ 4.0%	7,463 10,806	6,440 9,893	7,370 9,482
資金別	民間資金	56,206	5,376	10.6%	▲ 14,505	▲ 20.5%	57,035	52,519	51,252
	公的資金	6,363	1,005	18.8%	492	8.4%	6,460	5,111	4,646
	公営住宅	935	155	19.9%	▲ 41	▲ 4.2%	1,495	534	435
	住宅金融機構融資住宅	1,221	▲ 132	▲ 9.8%	▲ 689	▲ 36.1%	1,229	1,096	1,118
	都市再生機構建設住宅	361	361	—	361	—	0	0	0
	その他住宅	3,846	621	19.3%	861	28.8%	3,736	3,481	3,093
構造別	木造	36,559	6,902	23.3%	▲ 2,247	▲ 5.8%	37,883	34,341	32,986
	非木造	26,010	▲ 521	▲ 2.0%	▲ 11,766	▲ 31.1%	25,612	23,289	22,912
	鉄骨鉄筋コンクリート造	216	▲ 152	▲ 41.3%	▲ 313	▲ 59.2%	287	216	182
	鉄筋コンクリート造	18,553	▲ 217	▲ 1.2%	▲ 9,175	▲ 33.1%	17,844	15,193	15,644
	鉄骨造	7,213	▲ 123	▲ 1.7%	▲ 2,248	▲ 23.8%	7,462	7,854	7,046
	コンクリートブロック造 その他	15 13	▲ 22 ▲ 7	▲ 59.5% ▲ 35.0%	▲ 20 ▲ 10	▲ 57.1% ▲ 43.5%	13 6	14 12	21 19



建材マンスリー2025年12月号、2026年1、3、4月号の「2025年10月のグラフ合計数」に誤りがございました。訂正しお詫び申し上げます。

(出典：国土交通省ホームページ [http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku\\_list.html](http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html))

WOODONE

建材マンスリー

NO.728

JUNE  
2026

6

昭和39年8月創刊 第62巻 令和8年6月1日発行 (毎月1日発行) 通巻728号  
発行人/細谷 洋一 発行所/建材マンスリー編集室 〒100-8270 東京都千代田区大手町1-3-2 (経団連会館)  
住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

# ともに暮らす。 木と人と、地球と。

1935年に広島県佐伯郡吉和村にて木材業として創業以来、  
自然と対話しながら健やかな木材を育てる森林経営を営んできたウッドワン。

一本の苗木から森を育て、伐採して製品にする事業は、  
今では約40,000haのニュージーランドの森を拠点に、  
世界の工場へと広がっています。

木と森と人の暮らしをつなぎ、  
人から人へとつないでいく製品は、安らぎのバトンです。

持続可能な社会を、子どもたちの未来のために。

森林資源を減らすことなく、30年かけて育てたニュージーパイン®を木質建材として有効利用しています。

※「ニュージーパイン®」…ウッドワンがニュージーランドで計画的に植林・育林したラジアータパインの登録商標です。

株式会社 **ウッドワン**

本社 広島県廿日市市木材港南1番1号 〒738-8502 <https://www.woodone.co.jp>

